

様式第 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	第 4 回 所沢市保健医療計画推進委員会
開 催 日 時	令和 7 年 1 1 月 2 6 日（水） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 0 0 分
開 催 場 所	所沢市役所 8 階 大会議室
出 席 者 の 氏 名	※別紙 「所沢市保健医療計画推進委員会委員名簿）」 のとおり
欠 席 者 の 氏 名	
説明員の職・氏名	様式第 2 号発言者のとおり
議 題	（１） 令和 7 年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案）について （２） 第 2 次所沢市保健医療計画 令和 6 年度取組状況評価シート（全章）（案）の確定について （３） 第 3 次所沢市保健医療計画 素案の確認について （４） 第 3 次所沢市保健医療計画答申書（案）について （５） 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画について （６） その他
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 本会議の目的・説明要旨 ・ 資料 1 令和 7 年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案） ・ 資料 2－1 第 2 次所沢市保健医療計画 令和 6 年度取組状況評価シート（全章）（案） ・ 資料 2－1（別紙）令和 6 年度からの新たな取組実績等について ・ 資料 2－2 第 2 次所沢市保健医療計画 目標達成度一覧（令和 6 年度） ・ 資料 3 第 3 次所沢市保健医療計画 素案 ・ 資料 4 第 3 次所沢市保健医療計画の策定について（答申）（案） ・ 資料 5 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画 素案 ・ 資料 5（別紙）所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について ・ 資料 6－1 意見シート（令和 6 年度取組状況評価シート） ・ 資料 6－2 意見シート（第 3 次所沢市保健医療計画）

担 当 部 課 名	健康推進部	部 長	小山 貴之
		次 長	田中 浩文
		保健センター長	糟谷 苗美
		保健医療課長	中山 倫宏
		保健医療課副主幹	佐藤 征逸
		保健医療課副主幹 (保健所準備室長)	森 真太郎
		保健医療課主査	八川 麻紗子
		保健医療課主任	日野 航介
		保健医療課主事	柿沼 慶賢
		健康管理課長	一色 義直
		健康管理課主幹 (こころの健康支援室長)	小野寺 健
		健康管理課主幹	千葉 喜文
		健康づくり支援課長	岩雲 美香
		健康づくり支援課主幹	近藤 真弓
	こども未来部		
		こども家庭センター担当参事	松井 優子
		こども家庭センター主幹	美甘 有利恵
	事務局 健康推進部保健医療課 電話：０４（２９９８）９３８５		

※別紙 所沢市保健医療計画推進委員会 委員名簿

No.	所 属	氏 名	出欠	備 考
1	公募委員	二瓶 広和	○	
2	公募委員	碓谷 栄治	○	
3	公募委員	小野 向日葵	○	
4	公募委員	丸山 香	○	
5	所沢市医師会 会長	赤津 拓彦	○	※委員長
6	所沢市歯科医師会 副会長	北田 徳克	○	
7	所沢市薬剤師会 副会長	塚本 京子	○	
8	所沢市柔道整復師会 会長	吉田 南成	○	
9	所沢市鍼灸師会 会長	原澤 清一	○	
10	所沢市母子愛育会 会長	大里 節子	○	
11	所沢市食生活改善推進員協議会 会長	丸山 静香	○	
12	所沢市スポーツ推進委員会 副会長	須藤 貢	○	
13	所沢市社会福祉協議会 事務局長	黛 浩一郎	○	
14	所沢市介護保険サービス事業者 連絡協議会 会長	米川 智裕	○	
15	早稲田大学 人間科学学術院長・人間科学部長	扇原 淳	○	※副委員長
16	知識経験者	瀬能 幸則	○	
17	狭山保健所 副所長	小口 千春	○	
18	埼玉西部消防局	日高 賢	○	
19	市民医療センター長	黒木 康富	○	

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（中山）	（開会）
赤津委員長	（挨拶）
事務局（中山）	<p>本日の委員会は欠席者はおらず、条例の規定により委員会が成立していることを報告する。</p> <p>（事前配布資料の確認）</p> <p>（会議内容の説明）          次第に沿って、以下のとおり進行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題（１）令和７年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案）について</li> <li>・議題（２）第２次所沢市保健医療計画 令和６年度取組状況評価シート（全章）（案）の確定について</li> <li>・議題（３）第３次所沢市保健医療計画 素案の確認について</li> <li>・議題（４）第３次所沢市保健医療計画答申書（案）の確認について</li> <li>・議題（５）所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画について</li> </ul> <p>（議事前の手続）          前回と同様、以下の取扱とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会は「公開」</li> <li>・会議録は「要約方式」、発言者は「委員名を記載」</li> <li>・会議録は委員長の承認を持って確定</li> </ul> <p>本日の会議の進行については、条例第６条第１項の規程により、委員長が議長となるので、赤津委員長にお願いしたい。</p>
赤津委員長	<p>それでは議長を務めさせていただく。まず傍聴者の確認をお願いしたい。</p> <p>（傍聴者なし）</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	（議事） 議題（１）令和７年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局（佐藤）	（資料１ 令和７年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案）にて説明）
赤津委員長	パブリックコメントが１２月下旬から１月下旬にかけて行なわれるため、それまでに市の案を概ね確定する必要があるのだと思う。 本日の会議について、皆様のお考えやご意見分については、１２月１日が期限となっているので、よくご覧いただきたい。 それでは、事務局から説明のあったスケジュールに沿って進めさせていただくので、よろしくお願いしたい。
委員一同	（意見なし）
赤津委員長	次に、議題（２）第２次所沢市保健医療計画 令和６年度取組状況評価シート（全章）（案）の確定について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局（佐藤）	（本会議の目的・説明要旨、資料２－１ 第２次所沢市保健医療計画 令和６年度取組状況評価シート（全章）（案）、資料２－１別紙 令和６年度からの新たな取組実績について、資料２－２ 第２次所沢市保健医療計画 目標達成度一覧（令和６年度）説明要旨にて説明）
赤津委員長	本件は前回いただいた委員からのご意見を受けて修正している。もしご意見があれば、１２月１日までに事務局に提出をお願いしたい。
委員一同	（意見なし）
赤津委員長	次に、議題（３）第３次所沢市保健医療計画 素案の確認について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局（日野）	（本会議の目的・説明要旨、資料３ 第３次所沢市保健医療計画 素案にて説明）

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>大きな流れとしては、市民自らが自分事として考えていただき、それを支えるような制度設計を市として取り組んでいきたいというところが感じられる。</p> <p>また、資料３の４８ページで「ライフステージアプローチに加えたライフコースアプローチの推進」が示されているが、こども・働き盛り・高齢者といったライフステージに加えて、男性・女性でライフコースは当然異なる。また、障害を持って生まれたこどももライフコースが異なると思うので、それぞれに対し、市がどこまできめ細かい対応ができるのかが問われているのだと思う。</p> <p>どこまでできるかはわからないが、「誰一人取り残さない」ということを大きな目標とした計画なのではと思う。</p> <p>委員の皆様の意見を伺いたい。</p>
扇原副委員長	<p>非常に見やすい印象である。その上で修正いただきたい点がある。</p> <p>（資料３ p.36 グラフ（２）コロナ禍の変化について）</p> <p>図を示すのは良いと思う。その中で、対面で誰かと過ごす時間を示している図だが、これは時系列を表す場合には折れ線グラフでいいと思うが、比較しているのは割合だと思うため、図表を変えた方がいいと思う。</p> <p>（資料３ p.98）</p> <p>「保健医療関係団体等の主な取」となっているところは、「保健医療関係団体等の主な取組」と修正していただきたい。</p>
碓谷委員	<p>これまで出してきた意見について、「こころの健康づくり」や「『生きる』を支える」という形に昇華していただいたことに心から敬意を表したいと思う。</p> <p>（p.24 ■所沢市のライフステージ別死因順位について）</p> <p>「少年期」の死因の２位が「他殺」というのは合っているのか。</p>
事務局（日野）	<p>改めて確認する。今のご指摘箇所はもちろんだが、総論全体のデータについては、数字に誤りがないか精査したい。</p>
赤津委員長	<p>自殺というのが若い頃から多いのは残念に思う。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
丸山委員 （公募）	（p. 14 デジタル社会化の進展について） 「医療分野においてもDXを通じた～」とあるが、DXとは何か。
事務局（日野）	いわゆるデジタル技術を活用した効率化やサービス向上の意味である。例えば生成AIのような革新的なデジタル技術がどんどん進歩しているため、それらを上手く活用しつつ、サービスの向上を図っていくというものになる。その他、マイナ保険証も該当する。 これまで紙でやりとりをしていたものを電子、あるいはスマホのアプリを使って手軽にできるなど、様々なデジタル技術が浸透することで、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることがDXと呼ばれている。
赤津委員長	それこそコラムの中で説明するといいと思う。DX=Digital Transformationという表記などが論文では一般的である。
事務局（日野）	保健医療分野は専門用語がそもそも多いため、用語集など添えたいと思う。
二瓶委員	所沢市公式LINEをお友達登録すると、様々な情報が入ってくる。そういったことをこちらに載せても良いと思う。
事務局（日野）	実はLINEを行う前から、所沢市ではほんとメールにて災害時の情報発信などを行なってきた。それがLINEとも連携している。ワクチン接種などもLINEを通じてやってきた。DXの具体的な一つの形として、市独自の取り組みだと思うので、関係課と相談の上、コラム等でお示しするか考えたい。
小野委員	よくまとまっていると思う。特に図の挿入やグラフで表している点は、視覚的に見やすいと思った。
赤津委員長	「誰一人取り残さない」「全ての市民を救う」「市民の皆様がやる気を出せる」、そうしたメッセージがこの計画に含まれるのだろうと思う。もしご意見があれば、12月1日までに提出をお願いしたい。
赤津委員長	次に、議題（４）第３次所沢市保健医療計画答申書（案）について事務局から説明をお願いしたい。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（日野）	<p>（資料４ 第３次所沢市保健医療計画の策定について（答申）（案）にて、以下のとおり第３次保健医療計画策定にあたる本委員会から市に対する３つの付帯意見について説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢化が進む中、健康施策を実施するための人材や財源には限りがある。市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組む機運の醸成を図るため、行動変容を促す施策の推進や健康や医療を支える環境整備に努めていただきたい。</li> <li>2. 身体健康と関連性が高いところの健康づくりのため、他者とのつながりや社会参加の観点も意識した健康施策に努めていただきたい。</li> <li>3. 引き続き、保健・医療・介護・福祉の関係機関・団体をはじめ、市民・教育機関・企業・地域団体など多様な主体との連携・協働を図り、計画の推進に努めていただきたい。</li> </ol>
赤津委員長	<p>答申書の中には委員会の総意、皆さんからいただいた思いが書かれていると思う。埼玉県は医療従事者の数が最下位で、医者も看護師も他の医療職もいない中で行なわれているのが事実である。</p> <p>今後、介護人材など、日本人は誰もやらないといった時代が来ってしまうと思う。その中で、自分事として一人ひとりが取り組まなければならないというメッセージは絶対に必要だという認識であり、附帯意見１番目は必要である。</p> <p>自分でできなくなった時の支えは当然必要なので、その部分ではできる限り頑張りたい。本当は自治体ではなく、自治会のつながりを何らかの言葉で入れたいと思うが、附帯意見３番目にその要素が含まれていると思う。</p> <p>附帯意見２番目について、身体と関連性が高いところの健康は極めて重要であり、心と体というキーワードが入っている。その他、「他者とのつながり」や「社会参加」というのが貢献寿命にもつながるかもしれない。</p> <p>もし付け加えるならば、人それぞれ大幅に異なる「ライフコースアプローチ」について、附帯意見の２番目あたりで表現ができるといいなと思う。皆さんの総意でどんな言葉がいいのかを考えていきたい。</p>
北田委員	<p>所沢市も少子高齢化が進んでおり、地区によっては人口が増えているところもあるが、緩やかに高齢化が進んでいる地区もある。最後まで</p>



発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>ちんと健康で、健康寿命をいかに長くできるかという視点で、所沢市が幼少期から老年期まで全ての世代において住みやすい街になっていければと切に願っている。</p>
赤津委員長	<p>「最後まで」というキーワードが大切かもしれない。</p>
塚本委員	<p>附帯意見３番目にある「関係機関・団体」と「地域団体」はどう違うのか分からなかった。昔で言う隣組のような、もう少し身近な言葉が入ると良い。</p>
赤津委員長	<p>分かりやすい言葉で表現できるものになるといいと思う。</p>
吉田委員	<p>委員会に出席した時は当初は資料の多さに驚いた。どんどん話が進んでいくが、どこをめくればいいか分からない状況もたくさんあった。本日この資料を見て、今まで参加してきた中で非常に分かりやすくなっていると感じた。</p>
原澤委員	<p>資料４に関しては、今回は特に私から申し上げることはない。</p>
黒木委員	<p>各委員がおっしゃってるとおり、資料が非常に見やすくなったと感じている。コラムはだんだん出来上がるのだろうが、埼玉県の出産期医療がどの程度掘り下げられていくかに興味がある。</p> <p>今回の答申案について、前回との比較で附帯意見３番目の「引き続き、～」から始まる文章だが、ソフト・ハードが附帯意見の１番目、２番目で、３番目は前回と同じ意味合いで考えてほしいという形だと思うが、箇条書きの最初が「引き続き、～」で始まるのに違和感がある。</p> <p>同じ「引き続き、～」を入れるならば、「……を図り、引き続き計画の推進に、～」とした方がいいと思う。</p>
赤津委員長	<p>今のご指摘はおっしゃるとおりだと思う。</p>
日高委員	<p>答申（案）について、「人材や財源に限りがある」という記載は行政側の書き方であり、委員会の答申として述べるのは少し違うのではと感じた。前回の答申を見ると、ネガティブな部分ではなく、ポジティブな部分で要望する形になっているので、明るめな希望に満ちた答申の方がいいと思う。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>私はむしろ、市民に十分な情報を提供してこそ道は開かれると思っており、今までのようにサービスが受けられて当たり前というのでは、この先は続かないという意見である。</p> <p>限りある人材や財源を適切に健康施策に使えるように、という表現にはなるかもしれないが、無い袖は振れないことも伝えるべきだと思う。</p> <p>例えば消防もそうだが、救急の需要と供給の差がどんどん開いていき、人材に限られる中でどこまで対応できるのか、我々自らにしなければならぬ問いだと思う。</p> <p>行政が提供するものに対し、財源はあるのか。財政調整基金はどうか。非常に厳しい財政事情であることをきちんと市民に知らせ、ここまではできるが、ここはできないということを本来は示すべきだと思う。附帯意見の表現は工夫したい。</p>
小口委員	<p>全体的に幅広い視点でまとめられている文章だと思う。附帯意見 1 番目の「主体的に健康づくりに取り組む」というところは、元々健康な人、医療・介護が必要な方、それぞれの状況に応じた健康づくりの意味が込められているのではと感じた。</p> <p>附帯意見 2 番目の「こころの健康づくり」については、心が健康でないと、体の健康は守れないと日々思っているので、大事なことだと思う。</p>
赤津委員長	<p>健康な人だけの健康づくりではなく、健康ではない人のための健康づくりでもあり、皆に関係があるというのは大切なことだと思う。</p>
瀬能委員	<p>文章自体は特に指摘はない。附帯意見 2 番目のところで、「こころの健康づくり」を入れていただいているところがポイントだと思う。</p> <p>こころの健康について、所沢市は非常に力を入れているところもあり、引き続きこころの健康を意識した健康施策に今後も力を入れながら取り組んでいただきたいと思うので、これを入れたのはとても良いと思う。</p>
赤津委員長	<p>デジタル化が進むことで、人との付き合いが上手くいかない人が増えてしまう懸念もあるので、こころの健康というのは大切な視点だと思う。</p>
米川委員	<p>附帯意見 3 番目の「保健・医療・介護・福祉の関係機関・団体をはじめ」というところだが、この会議だけではなく、他の会議に出ても所沢市は医師会・歯科医師会・薬剤師会などを含めて、非常に多くの団体が</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>協力し合いながらできていると強く感じている。</p> <p>この表現自体は全く悪くないが、所沢市は市だけではなく、協力機関が一体となって市民の方々の健康を支えているんだよ、というようなことで、所沢市らしいものを何らか入れられるといいなと思う。なおかつ、市民一人ひとりでも取り組んで欲しいということで、一人ひとりの望まれる健康づくりの取り組みという流れが良くできるのではないかなと思う。</p> <p>関係団体一丸となって行動できるように支援をいただきたいということかなと思う。</p>
黛委員	<p>地域福祉の観点で申し上げますと、附帯意見１番のところは、「市民一人ひとりが主体的に～～」とあるので「自助」の要素かなと思う。</p> <p>一方で、そうは言っても、１人だけでは難しい部分を「公助・共助」の要素として、附帯意見２・３の流れは凄く良いと思う。</p> <p>個人的には、特に附帯意見１番の「市民一人ひとりが」の部分について、自身の健康はまずは個々がしっかりとすることが大事なのであって、そもそも健康は行政が提供してくれるという考えは違うだろうと思っている。財源がないから個人でしっかり取り組もうではなく、まずは「市民一人ひとりが主体的に～～」が先にあるべきだと思う。</p> <p>確かに今所沢市は非常に財源的に厳しいということも市民に伝えていかなければならないが、財源が苦しくなったから一人ひとりが頑張るべき、というよりは、本来は一人ひとりが頑張って取り組む必要があるという部分は少し切り離しても良いのではと思う。</p>
赤津委員長	<p>おっしゃる通りだと思う。限られた中でしっかり取り組んでいく形にしていきたいと思う。</p>
須藤委員	<p>スポーツに携わっている者として、附帯意見３番目の「関係機関・団体」とあるが、この中にスポーツ団体も入れて欲しいと思った。</p> <p>スポーツができない人も例えばプロ野球やメジャーリーグなどを観戦して、盛り上がり、皆で喜びを分かち合うこともできる。</p> <p>また、東京でデフリンピックも開催しており、耳の聞こえない方々に対し、手話で応援する様子等、皆一人一人が見られると良いなと思った。</p>
赤津委員長	<p>「スポーツ」はとても良い言葉で、前向きに受け止められると思うので、どこかに入れられるといいなと思う。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
丸山委員（所沢市食生活改善推進員協議会）	<p>分かりやすくていいと思う。附帯意見３番目に記載されている地域団体だが、どんどん衰退していると思う。昔は婦人会など様々な団体があったが、今は公民館活動や婦人会がほとんどない。私たちの会はまだ残っている方だが、もう少し何か考えないといけないのではと感じている。</p>
赤津委員長	<p>地域のお祭りなども無くなったり、無縁社会というところで関わりを持ちたくない人たちが増えてきている印象がある。そこをどうにかできれば良いなと思う。</p>
丸山委員（所沢市食生活改善推進員協議会）	<p>保健センターでの健康まつりを始め、文化祭も無くなってきて、一般の人が参加して取り組む行事がどんどん無くなっているなと思う。</p>
赤津委員長	<p>なるべく皆が参加できるようなイベントを作れるかどうかだと思う。</p>
大里委員	<p>地域団体など多様な主体との連携に関することでは、本の読み聞かせはまちづくりセンターの中などで子育てサロンや児童館、図書館などでも行なっている。これからも引き続き親子の触れ合いの機会を作っていたき、子育て世代の孤立化を防ぐためにも、まちづくりセンターをもっと利活用してもらえようＰＲや声掛けが必要だと思う。</p>
赤津委員長	<p>「触れ合い」も大事な言葉だと思う。</p>
扇原委員	<p>答申をどこまで細かく書くのかというのは難しいと改めて思った。それぞれに思いがあると思うが、大きく三つはこのような形で良いと思う。「人材や財源には限りがある」という表現を敢えて入れるという考え方もありだと思った。</p> <p>一方で、「市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組む機運の醸成」の部分を始めに持ってきた上で、人材や財源に限りがあるという話をするのも良いと思った。</p> <p>それぞれ色々な課題はあるものの、大まかに変える必要はなく、このような形で答申をいただければ良いと思う。</p>
赤津委員長	<p>皆様のご意見を伺ったので、文章は事務局の方で考えていただくことになると思う。ご意見があれば１２月１日までお願いしたい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	次に、議題（５）所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局（八川）	（資料５ 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画 素案、資料５別紙 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定についてにて説明）
赤津委員長	<p>所沢市の新型インフルエンザ等対策行動計画だが、国の指針がまず最初にあり、それに基づいて県の指針がある。</p> <p>市の行動計画から「医療」が抜け落ちていたことに疑問を感じ、あり得ないと思っていたが、実際は国が作成しているガイドラインの中に、市が作成すべき項目に「医療」が入っていない。</p> <p>このため、国・県の指針にしっかりと基づいて所沢市は文章を作成している。</p> <p>しかしながら、今後、保健所設置市になると、「医療」の部分について、きちんと記載する必要があるため、市の保健所が出来た時には、この行動計画も当然作り直さなければいけなくなる。</p> <p>このため、今回の記載内容については、重複の内容がかなりあるが、それは県のガイドラインに沿って作成されているためにそうした記載があるということをご理解いただき、是非ご一読いただいた上で、何かご意見があればいただければと思う。</p> <p>県と市の大きな違いは、感染症法における権限である。感染症法において、県は強制入院や交通遮断といった、強制力のある措置を執ることができる。その他、県は疫学調査や医療機関に対する病床確保等を命じることができる。</p> <p>一方で、市はそうした権限を持っていない。このため、強制力のある措置を執る場合には、市はあくまでも県が指示・命令したことに基づいて実行するということである。しかしながら、市は住民に対しての啓蒙という部分において、住民サービスや予防接種については主体的に動けるので、そのあたりの記載を一生懸命この計画では書いている。</p>
委員一同	（意見なし）
赤津委員長	議題（６）その他について、事務局からお願いしたい。
事務局（森）	（所沢市保健所設置基本計画の策定について報告）

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（中山）	閉会にあたり、扇原副委員長よりご挨拶をお願いしたい。
扇原副委員長	（挨拶）
事務局（中山）	以上で令和７年度第４回所沢市保健医療計画推進委員会を閉会する。
	<閉会>